

小児がん拠点病院の指定に関する検討会 (平成25年12月19日)

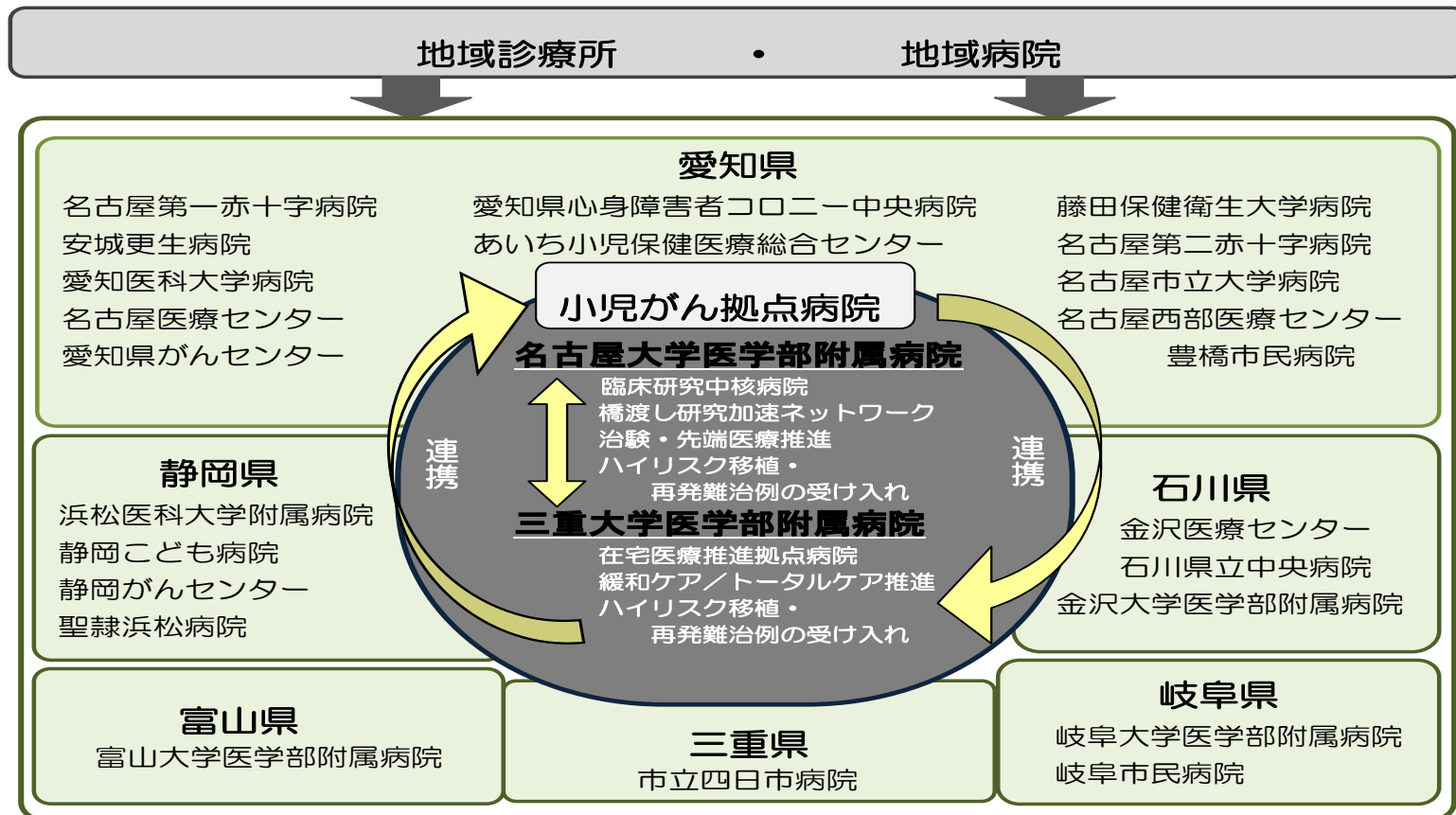
東海北陸ブロック追加資料

(小児がん拠点病院)

名古屋大学医学部附属病院

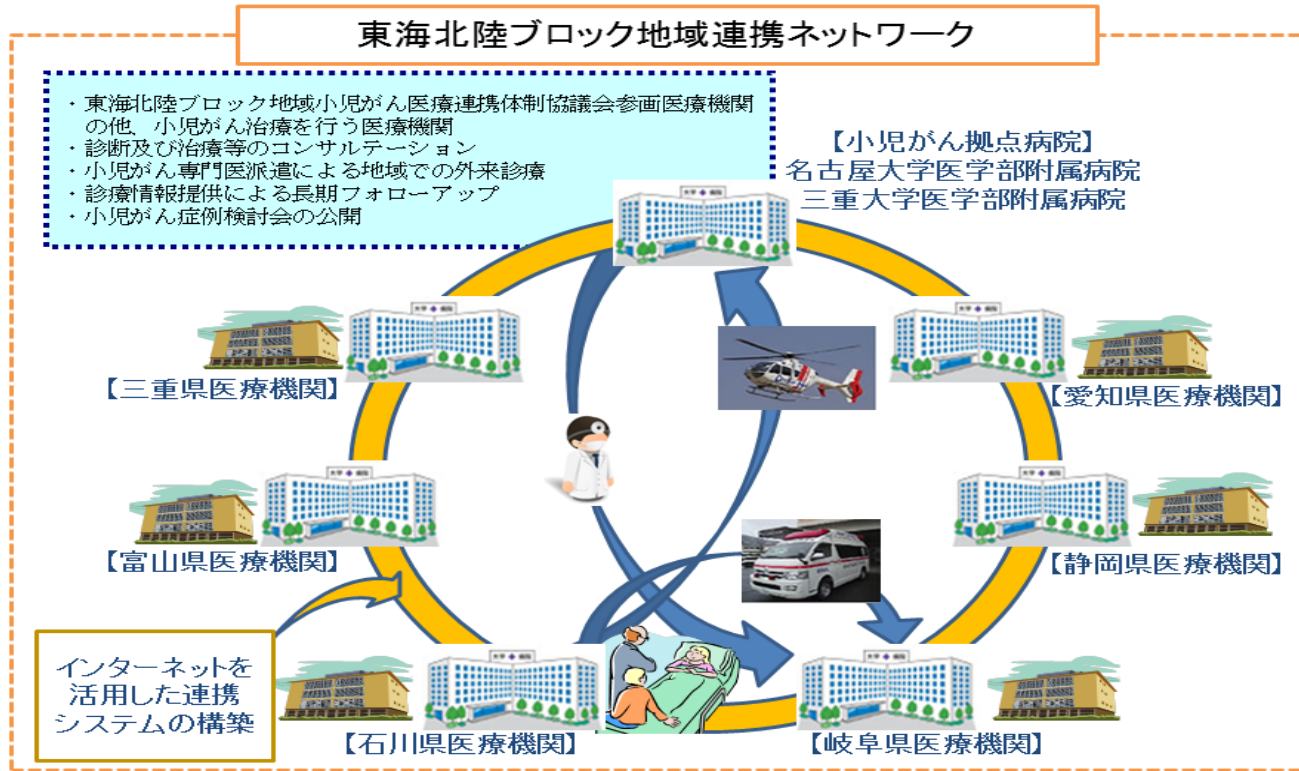
三重大学医学部附属病院

東海・北陸ブロック内拠点病院の役割分担について



ブロック内における地域特性から、名古屋大学医学部附属病院は県下に複数の小児がん診療病院が存在することから、再発・難治性がんを対象にした造血幹細胞移植の実施に重きを置いているほか、臨床研究中核病院や橋渡し研究加速ネットワークに選定されていることから、小児がん関連治療や先端医療開発の中心的役割を担う。三重大学医学部附属病院は県内唯一の小児がん診断・治療施設として、再発・難治症例等限定せず、全てのがん種の診断治療を行っており、長期フォローアップ拠点病院として専門外来を設け、継続的な小児がん経験者の診察及び相談も行う。また中部小児がんトータルケア研究会の中心メンバーでもあることから、緩和ケア、小児在宅医療にも積極的に取り組んでおり、小児等在宅医療連携拠点病院として、地域の在宅医療支援も担う。

東海・北陸ブロック内の連携について

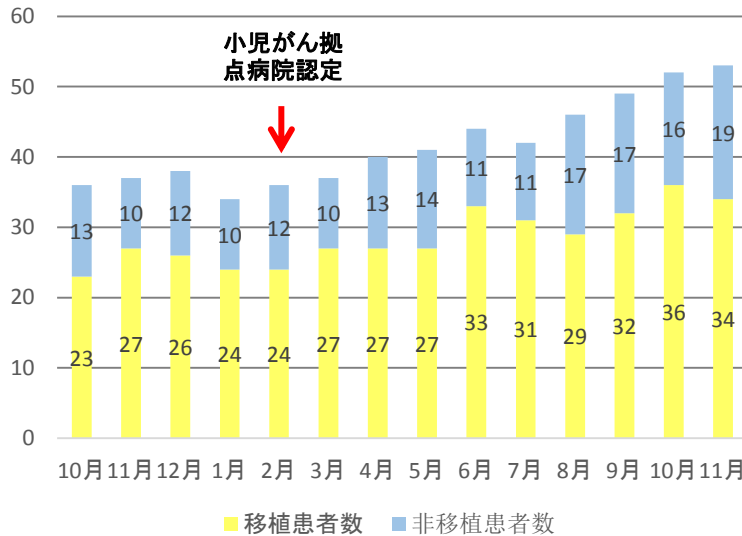


東海北陸ブロックでは、中部小児がんトータルケア研究会、東海小児がん研究会、東海小児造血細胞移植研究会及び東海小児血液懇話会など小児専門医等による研究会（毎回東海・北陸ブロック小児科医50名以上参加）が年総数11回開催している。更なる連携強化のため、東海・北陸ブロック地域小児がん医療提供体制協議会を設置した。平成25年7月1日第1回を開催し今後定期的に年1～2回実施する。また、ブロック内各県単位で様々な地域医療連携システム等が取り入れられていることから、東海北陸ブロック単位でのシステム構築の検討中である。例えば、三重県で行われている連携システムは、インターネットを介したシステムであり、デジタル証明を取得することで他県医療機関との連携も可能であることから、各県のシステムを詳細に調査し、ブロック内の連携を行っていく。

小児がん治療センターの設立(名古屋大学医学部附属病院)

小児がん治療センター体制図

名大病院小児科血液・がん 入院患者数の推移



25年10月より小児がん治療センターを稼動した。小児がん治療センターはセンター長1名、内科系外科系教員各1名からなり、院内各診療科及び各チームと連携協力するとともに東海・北陸ブロックの各小児がん診療病院とも連携協力する。また、2014年度中に、小児病棟内に無菌病床を増設し、5床とする。小児がん患者の診療、研究を牽引するとともに、専門的知識を有する医療従事者の育成にあたる。具体的には、小児がんの診療に従事する内科系、外科系レジデント(総計10名)の教育のほか、多職種でのチーム医療の実現に向けて、小児がん医療に携わる医療従事者向けの教育を行う。

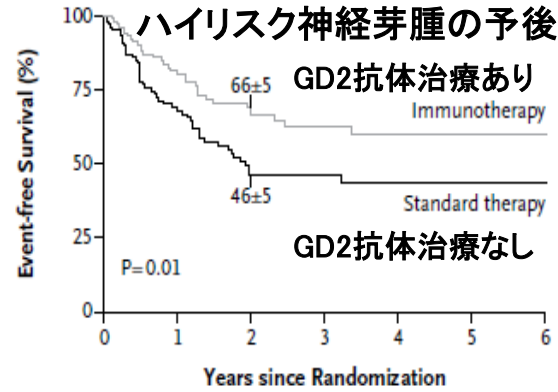
高度先進医療の推進(名古屋大学医学部附属病院)

(1)小児がん臨床治験の推進

=ドラッグラグ解消に向けて

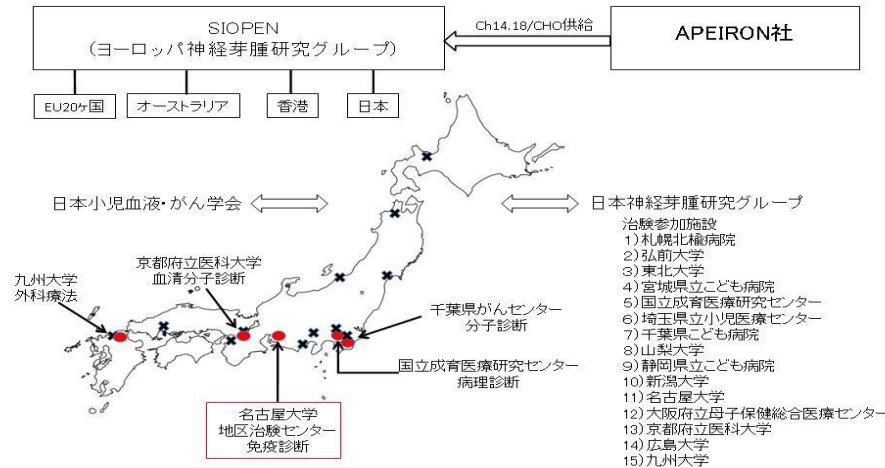


Yu AL et al. N Engl J Med. 2010 Sep 30;363(14):1324-34.



欧米では神経芽腫の標準治療薬である**GD2抗体**が我が国では未承認である。名古屋大学小児科が日本代表事務局となって全国15施設およびヨーロッパ神経芽腫研究グループと共同で早期承認のための国際共同医師主導治験を計画し、**PMDAとの戦略相談を終了、日本医師会治験推進研究費を取得した。**来春から開始予定である(下図)。

国際共同治験による難治性神経芽腫を対象とした抗GD2抗体(Ch14.18/CHO)の開発研究



(2)トランスレーショナルリサーチの推進

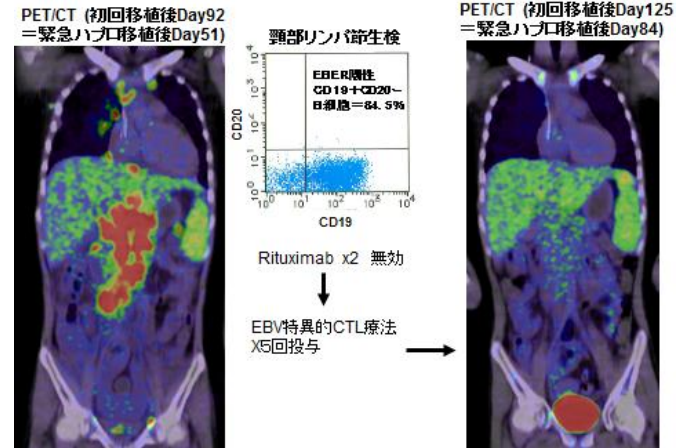
治療の安全性に関する臨床第I相試験

1) サイトメガロウイルス特異的CTL (CMV-CTL)

5名に投与し4名で末梢血CMV-DNAが消失が得られ、重篤な副作用は認めていない

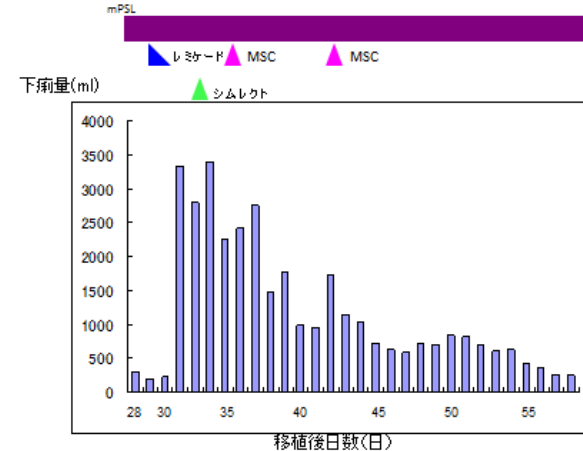
2) EBウイルス特異的CTL (EBV-CTL)

移植後CD20陰性EBV-LPDに対するEBV特異的CTL療法の効果



3) 間葉系幹細胞 (MSC)

ステロイド抵抗性GVHDに対するMSC療法

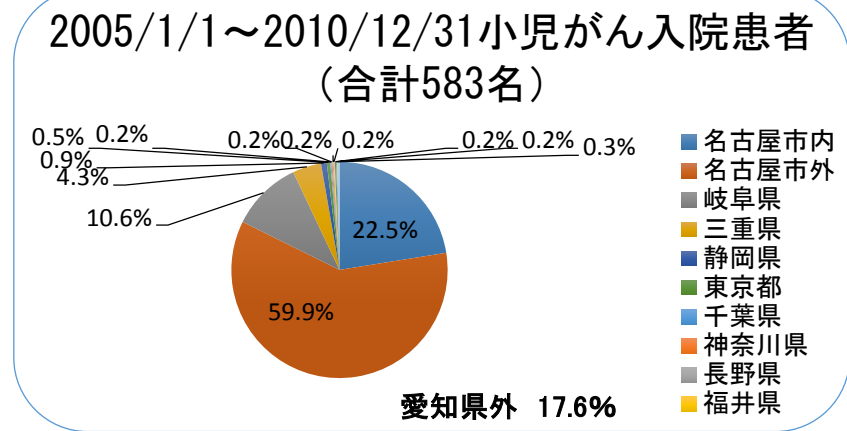


長期滞在宿泊施設について(名古屋大学医学部附属病院)

～我が家のようにくつろげる第2の家～
『ドナルド・マクドナルド・ハウス なごや』完成



(『ドナルド・マクドナルド・ハウス なごや』)



(多目的室)



(ベッドルーム)



(コインランドリー)



(プレイルーム)



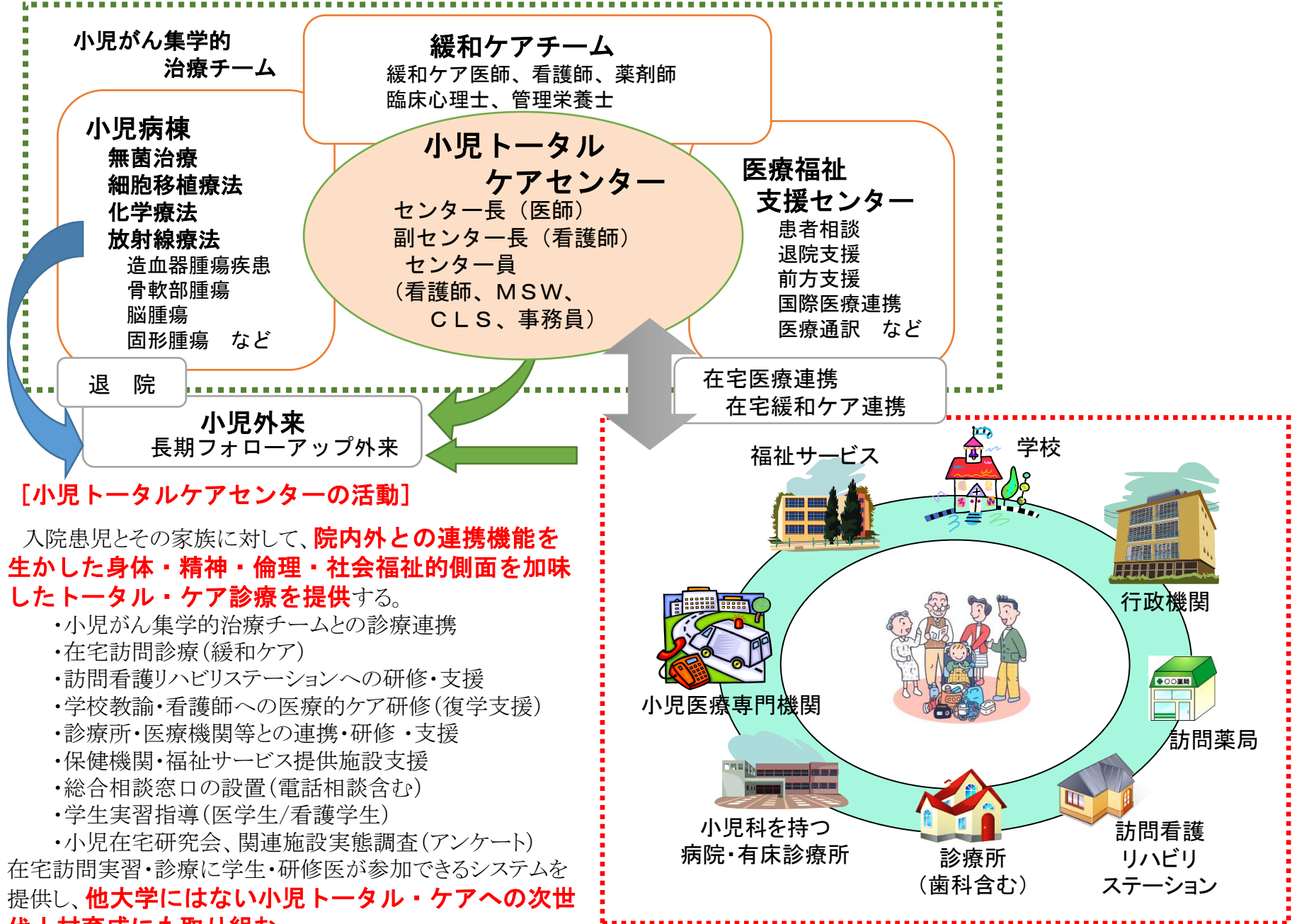
(ダイニング)



(リビング)

2013年11月名古屋大学医学部附属病院敷地内にオープンした『ドナルド・マクドナルド・ハウス なごや』は、自宅と同じように過ごせるよう、ベッドルーム(27.0㎡×10室、45.9㎡×2室)、キッチン(2室合計41.12㎡)、リビング(23.71㎡)、ダイニング(63.92㎡)、ランドリー(14㎡)、プレイルーム(11.73㎡)、パソコン及び図書等完備の多目的室(57.27㎡)を備え、同じような病気の子どもの母同士のコミュニケーションの場を提供する環境を備えている。名古屋大学病院敷地内に設置されているが、近隣病院の小児入院患者及び家族等も使用可能となっており、地域の財産として活用する共同施設となっている。マクドナルドハウスの対象患者さんである名古屋市以外の患者さんは約4人に3人、愛知県外の患者さんとしても約4人から5人に1人となっている。

小児トータルケアセンターについて(三重大学医学部附属病院)



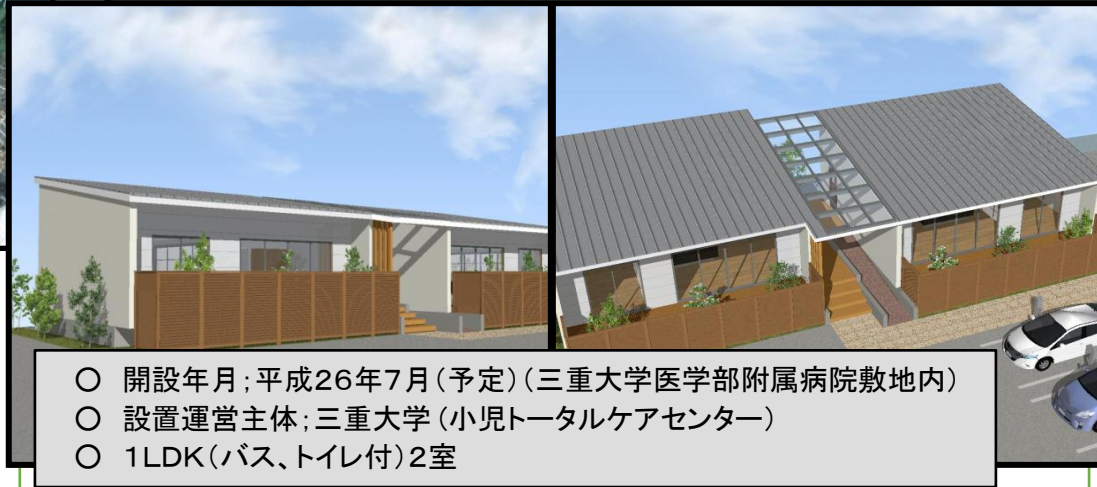
[小児トータルケアセンターの活動]

入院患児とその家族に対して、**院内外との連携機能を生かした身体・精神・倫理・社会福祉的側面を加味したトータル・ケア診療を提供**する。

- ・小児がん集学的治療チームとの診療連携
- ・在宅訪問診療(緩和ケア)
- ・訪問看護リハビリテーションへの研修・支援
- ・学校教諭・看護師への医療的ケア研修(復学支援)
- ・診療所・医療機関等との連携・研修・支援
- ・保健機関・福祉サービス提供施設支援
- ・総合相談窓口の設置(電話相談含む)
- ・学生実習指導(医学生/看護学生)
- ・小児在宅研究会、関連施設実態調査(アンケート)

在宅訪問実習・診療に学生・研修医が参加できるシステムを提供し、**他大学にはない小児トータル・ケアへの次世代人材育成にも取り組む。**

長期滞在宿泊施設について(三重大学医学部附属病院)



既存宿泊施設三重ファミリールーム



- 1) 開設年月;平成11年4月
(三重大学医学部附属病院より徒歩5分)
- 2) 設置運営主体;三重ファミリールーム運営委員会
(構成員;小児トータルケアセンター、看護学科教員、親の会)
- 3) 維持費;三重県小児科医会等からの寄付、バザー収益金、施設利用料、その他大学病院修繕費等
- 4) 維持管理;看護学科学生ボランティア、運営委員会委員
- 6) 1LDK(バス、トイレ付)4室+プレイルーム1室

平成25年度に企業からの寄付を受け、大学病院敷地内へ**三重大学医学部附属病院小児入院患者家族等専用**の1LDK2室を有する宿泊施設を設け、滞在施設としての利用だけでなく、**小児がん患者家族の休憩やコミュニケーションの場として活用**していく。

これらの宿泊施設については、**小児トータルケアセンター**が主体となって管理、運営、相談等を行い、特に新たに開設する施設については、**地域の在宅医療を担う訪問看護師、ケアマネージャーと連携し、在宅療養へ移行するための患児及びその家族の訓練の場とし活用**するなど、本活動について問題点等の洗い出し、検討を行い、小児がん診療を担う医療機関等に対し、スムーズな在宅への移行について提言を行っていく。